

「エッセンスシート」を用いた国語の学習観・学力にかかわる考察

東京電機大学中学校高等学校 松永 航平

実践背景

【問題点】

- ①国語の、「なんとなくできたりできなかったりする」「できないからやらない」というイメージ
- ②授業・考査と模試(あるいは入試)成績の乖離

【期待】

- ①「学力」の高い生徒の考え方・取り組み方にフォーカスし、模倣することで自己調整を行うようになること
- ②国語の授業・自主学習に対する考え方を変化させること
- ③上記①②のもと、初見文章に対する学力を向上させること

実践方法

- 対象学年:高校1年生
- クラス数および対象生徒人数:2クラス(42名/38名)
- クラス特性:習熟度上位クラス/基礎クラス
- 実践期間:2024年5月～

以下、「ロイロノート」を活用。

○「エッセンスシート・授業」

- i) 考査ごとに、授業の内容を1枚のカードにまとめた「エッセンスシート」を作成。※情報を「たたく」ことを意識する。※「この単元におけるもの」「今後も継続的に必要なもの」を分ける。※「完全に自分のものになったもの」は消してもよい。
- ii) 常に相互にシートを見られるようにしておく。
- iii) 授業中、「エッセンスシートに溜める」ことを促し、その時間を確保する。
- iv) 単元・教材ごとに、「クラスメイトのエッセンスシートを見る」ことを促し、その時間を確保する。(時間に余裕がない時は割愛)
- v) 考査前の最後の1時間は、上記iii) iv) の総まとめの時間とする。
- vi) 考査後にそのシート自体の振り返りを行う。

取得データおよび検証方法

- ①アンケート(1学期(5月)・2学期(12月))
- ②模試成績と「エッセンスシート」の取り組み
- ③ロイロノートに提出されたエッセンスシート/振り返りシート
- ④考査成績

結果

① アンケート ※6「とてもあてはまる」～1「まったくあてはまらない」の6段階、各項目の満点6.0

クラス	介入	ポジティブな事項				ネガティブな事項				
		意味理解	思考過程	方略	失敗活用	暗記	結果	環境	授業だけ	
習熟度上位	介入あり	1学期	4.4	4.6	5.1	4.8	3.2	3.5	4.0	4.4
		2学期	5.0	4.9	5.3	5.0	2.9	2.9	3.9	3.9
	2学期-1学期		0.6	0.2	0.2	0.2	-0.4	-0.6	-0.1	-0.5
	介入なし	1学期	4.6	4.5	5.0	4.3	3.1	3.5	4.3	4.2
2学期		4.9	4.3	5.1	4.5	3.4	3.6	4.0	4.3	
2学期-1学期		0.2	-0.2	0.1	0.2	0.2	0.1	-0.3	0.1	
習熟度一般	介入あり	1学期	3.6	4.1	5.0	4.2	3.3	3.9	4.1	4.5
		2学期	4.3	4.0	4.9	4.5	3.5	3.8	4.1	4.6
	2学期-1学期		0.7	-0.1	0.0	0.3	0.3	0.1	-0.1	0.1
	介入なし	1学期	3.8	3.8	5.1	4.4	3.5	4.0	3.9	4.6
2学期		4.6	4.6	5.3	5.0	3.5	3.6	4.4	4.6	
2学期-1学期		0.9	0.8	0.1	0.6	0.0	-0.4	0.5	0.0	

青字:望ましい結果(ポジティブな事項で+/ネガティブな事項で-)
赤字:望ましくない結果(ポジティブな事項で-/ネガティブな事項で+)
※数値は四捨五入したものであり、小数点以下の見かけの数字にずれが生じています。

すべてのクラスにおいて、概ね良い変化がみられる結果となった。

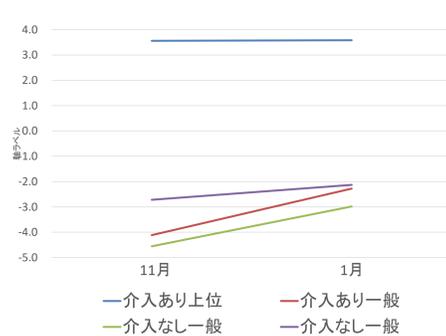
特に習熟度上位者で編成されるクラスは、本研究のねらいでもある授業観に対する変化がはっきりと見られた。

その一方で、習熟度一般クラスにおいては、介入あり/なしでの差があまり見られなかった。

授業でのほたらきかけを、すでに学習の準備ができていいる層とそうでない層に分けて考え、介入の強度を変えていく必要がある。

② 模試成績

高1ベネッセ総合学カテスト(古文分野) 全国平均との差



11月～1月に向けて全国的に平均点が下がる=内容が難化する中で、

介入クラスの全国平均との差の上昇分下がらず、(僅かではあるが)上昇したことはポジティブにとらえたい。

また、

習熟度上位クラスにおいて、1月模試成績下位5名はすべてエッセンスシートの質が低い、または未提出であり、

習熟度一般クラスにおいて、1月模試成績上位3名はすべてエッセンスシートの質が向上していた。

③-①「エッセンスシート」例

高校1年生1学期期末エッセンスシート

before(一学期) → after(二学期)

このエッセンスシートは、生徒が授業で学んだ内容を整理し、復習するためのツールとして作成された。一学期の例では、基本的な事項が整理されているが、二学期の例では、より詳細な分析や気づきが増えている。特に、生徒が「再読文字を思い出す」というプロセスを重視し、白文に読み戻し、天付けるときはもう一回読んでみるという確認方法が示されている。また、孔子と魯侯の思想を対比させるという深い考察も含まれている。

③-②「エッセンスシート振り返り」例

高1「言語文化」エッセンスシート振り返り

この振り返りシートは、生徒が自分のエッセンスシートを振り返り、学習の成果や課題を整理するためのツールとして作成された。生徒は、自分のエッセンスシートがどのような内容を含んでいるかを整理し、その内容が自分の学習にどのように役立っているかを振り返っている。また、自分のエッセンスシートが他の生徒のエッセンスシートと比べてどのような特徴があるかを振り返っている。

④ 考査成績推移

考査問題自体が若干異なるので、直接比較は難しいが、習熟度一般クラスにおいて、介入の有無である程度の差が見て取れる。

「授業の内容をリカバリーすること」に対して、「エッセンスシート」作成と(相互)復習が一定の成果を得られたといえる。

高1「言語文化」クラス別平均点推移

クラス	介入	1 中間	1 期末	2 中間	2 期末
習熟度上位※	あり	67.2	70.0	67.7	65.2
	なし	47.3	60.3	55.1	50.7
習熟度一般	あり	46.6	60.1	45.6	43.5
	なし	47.4	66.8	50.2	47.2

※習熟度上位クラスは考査問題も一部異なる

考察・課題

○ 考察

① 学習観・メタ認知(「結果」①)

上位クラスでは、期待通りに本取り組みの成果が反映された一方で、一般クラスでは、予想と異なる結果となった部分もあった。上述したように、クラスごとに授業での働きかけの内容や強度に工夫が必要であると考えられる。

② エッセンスシートと模試/考査成績(「結果」②・③・④)

成績上位者または向上者は、概ねエッセンスシートを適切に作成・復習できている。特に、「結果」④考査成績推移からは、「エッセンスシート」を用いることでの学習成果は見える。

○ 反省・課題

- ①「実践背景」【期待】①について、データとしてはっきりと見られるようなフレームを作るべきであった。(「結果」③-②が該当)
- ②上記の考察②をうけると、初見文章へ対応力(≒所謂「学力」)の伸長を求めるならば、エッセンスシートのシステムに加えて、以下のような授業のデザインや介入の工夫が、解決すべき課題の中心になるだろう。

- A)【授業】初見文章読解に向けての授業デザインの調整
- B)【介入】学習実態の確認/促進
- C)【介入】「エッセンスシート振り返り」を用いた相互復習の取り組みの促進